

会 議 記 録

会議名称		杉並区社会的養護自立支援拠点事業整備・運営業務受託者候補者選定委員会 (第1回)
日時		令和7年9月27日(土) 19時00分～20時30分
場所		杉並区役所分庁舎3階研修室
出席者	委員名	明星大学 人文学部福祉実践学科 常勤教授 川松 亮 氏 武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科 准教授 永野 咲 氏 Children's Views and Voices (CVV) 副代表 中村 みどり 氏 子ども家庭部長 松沢 智 氏 子ども家庭部管理課長 倉島 恭一 氏
	事務局職員	子ども家庭部児童相談所設置準備課長 三浦 恵利子 子ども家庭部児童相談所設置準備管理係長 吉田 仁 子ども家庭部児童相談所設置準備課 矢野 杏 子ども家庭部児童相談所設置準備課 上堀内 太郎
配布資料	事前	
	当日	資料1 杉並区プロポーザル選定委員会条例 資料2 選定委員会名簿 資料3 選定スケジュール(案) 資料4 杉並区社会的養護自立支援拠点事業整備・運営業務公募型プロポーザル実施要領(案) 資料5 杉並区社会的養護自立支援拠点事業整備・運営業務受託者候補者選定に係る審査基準(案) 資料6 第一次・第二次審査評価表(案) 資料7 杉並区社会的養護自立支援拠点事業整備・運営業務の受託者候補者の選定について(諮問)
会議次第		1 子ども家庭部長あいさつ 2 委員紹介、会長及び職務代理者の選任 3 スケジュール(案)について 4 実施要領(案)について 5 評価基準(案)について 6 その他

会長は川松委員となった。職務代理者は永野委員となった。

事務局から委託業務内容、実施要領（案）及び評価基準（案）、今後の進め方について説明を行った。

受託者候補者を令和8年1月までに選定するため、各委員からの意見を聴取し、本日、実施要領及び評価基準を確定するよう説明した。

○主な意見

【業務内容説明書】

- 対象者が、委託や措置解除がなされる前から事業につながるように対応する、といった記載をしたほうがよいという意見があった。
- 対象者に寄り添いながら支援をするということが大切なため、伴走型支援という記載をしたほうがよいという意見があった。
- 開所日及び実施時間について、事業者からの提案に基づき、適切な設定かどうかの審査ができるよう、記載内容を工夫した方がよいとの意見があった。

【企画提案書の作成について】

- 支援を行うに当たり、対象者の声を聴くことが大切なため、対象者の声を聴くことについて記載をしたほうがよいとの意見があった。

各委員からの意見、質疑を踏まえて、実施要領（案）の業務内容説明書の「対象者」「相談内容」「開所日及び開所時間」の表現を修正した。また、企画提案書の作成については、対象者の声を聴く取り組みを企画提案書に記載するよう修正することとし、選定委員全員の了承を得た。

次回の開催について

令和7年11月28日（金）19時00分～

杉並区役所 分庁舎3階 研修室

会 議 記 録

会議名称	杉並区社会的養護自立支援拠点事業整備・運営業務受託者候補者選定委員会 (第2回)	
日時	令和7年11月28日(金) 19時00分～20時00分	
場所	杉並区役所分庁舎3階研修室	
出席者	委員名	明星大学 人文学部福祉実践学科 常勤教授 川松 亮 氏 武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科 准教授 永野 咲 氏 Children's Views and Voices (CVV) 副代表 中村 みどり 氏 子ども家庭部長 松沢 智 氏 子ども家庭部管理課長 倉島 恭一 氏
	事務局職員	子ども家庭部児童相談所設置準備課長 三浦 恵利子 子ども家庭部児童相談所設置準備管理係長 吉田 仁 子ども家庭部児童相談所設置準備課 矢野 杏 子ども家庭部児童相談所設置準備課 上堀内 太郎
配布資料	事前	
	当日	資料1 審査基準(案) 資料2 第一次審査集計結果 資料3 第一次審査結果通知(案) 資料4 第二次審査タイムスケジュール(案) 資料5 第二次審査評価表(案) 資料6 ヒアリング質問(案) 資料7 第二次審査事例(案) 資料8 選定スケジュール
会議次第	1 第一次審査結果の確認 2 第二次審査について (1) 第一次審査結果通知 (2) タイムスケジュール (3) 評価表及び質問項目 3 その他	

会議の結果及び
主要な発言

1 第一次審査結果の確認

応募があった1事業者について各委員による第一次審査（書類審査）を実施し、事務局において集計を行った結果、配点合計の6割以上の点数であったため、選定委員の合意の上、第一次審査通過者として決定した。

2 第二次審査について

事務局より、第一次審査結果通知、タイムスケジュール、評価表及び質問項目について、説明を行った。

○委員からの主な意見

- ・ヒアリング、質疑応答の時間を十分に設けたい。
- ・ヒアリングにおいて、「開所日、時間の考え方」「危機管理体制に関すること」「事業準備に関するスケジュール」を詳細に確認したい。

各委員からの意見、質疑を踏まえて、第二次審査タイムスケジュールを修正した。また、ヒアリング項目について、表現を修正することとして委員全員の了承を得た。

次回の開催について

令和7年12月16日（火）18時30分～
杉並区役所西棟6階第6会議室

会 議 記 録

会議名称	杉並区社会的養護自立支援拠点事業整備・運營業務受託者候補者選定委員会 (第3回)	
日時	令和7年12月16日(火) 18時30分～20時00分	
場所	杉並区役所本庁舎西棟6階第6会議室	
出席者	委員名	明星大学 人文学部福祉実践学科 常勤教授 川松 亮 氏 武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科 准教授 永野 咲 氏 Children's Views and Voices (CVV) 副代表 中村 みどり 氏 子ども家庭部長 松沢 智 氏 子ども家庭部管理課長 倉島 恭一 氏
	事務局職員	子ども家庭部児童相談所設置準備課長 三浦 恵利子 子ども家庭部児童相談所設置準備管理係長 吉田 仁 子ども家庭部児童相談所設置準備課 矢野 杏 子ども家庭部児童相談所設置準備課 上堀内 太郎
配布資料	事前	
	当日	資料1 第二次審査タイムスケジュール 資料2 審査基準 資料3 第二次審査評価表 資料4 ヒアリング質問案 資料5 第二次審査事例 資料6 第一次審査集計結果
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 第二次審査の進行について 2 第二次審査について <ol style="list-style-type: none"> (1) プレゼンテーション・ヒアリング (2) 採点 3 受託者候補者の選定 4 その他 	

1 第二次審査の進行について

事務局より、本日の進め方、第一次審査の結果、第二次審査の進め方について説明を行った。

本日、プレゼンテーション、質疑応答を行い、第一次審査及び第二次審査の各委員の採点結果をもとに本選定委員会の受託者候補者を選定する旨、説明を行った。

2 第二次審査について

事業者へヒアリングを実施し、審査を行った。

【事業者への主な質疑】（「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す）

- ・児童養護施設の退所者以外にも、これまで社会的養護につながらなかった方々への支援も必要となるが、どのように関わっていくか。

→これまでの施設運営で培ってきた専門性を生かして、丁寧な相談対応により、相談者の背景を把握していきたい。

- ・相談者の権利を保障していくため、具体的にどのように取り組むか。

→まずは、相談者ひとり一人の意向を聞きとっていききたい。また、将来像と一緒に描いていくことをイメージしている。

- ・土日祝日や夜間の開設について、どのように考えているか。

→相談者が来所した際には、対応できるような体制を検討している。

- ・支援計画を策定するに当たって、どのように相談者の意向を確認して、支援計画を作っていくのか。また、計画に対するフォローやフィードバックをどのように実施していくか。

→相談者の背景や本人の意向をしっかりと聞いていききたい。モニタリングのような形式を取り入れた形で、相談者と一緒に先を考えるような支援計画を策定していきたい。

- ・利用者同士のトラブルや職員からの不適切なかかわりを防ぐために、どのように取り組んでいくか。

→相談者に対しては、相談の敷居が高くないよう、温かみがある形で事業を利用する際のルールを伝えていききたい。また、トラブルが発生しないように事前にトラブルの種を発見していきたい。職員に対しては現在施設で取り組んでいる権利擁護の研修やアンガーマネジメント研修等を準用し、教育を実施していく。

- ・事故や災害が発生した際の体制はどのように考えているか。

→施設で作成している、危機管理マニュアルやBCP計画、避難計画等を準用していきたい。

- ・事業の管理者には、どのような職員を配置する予定か。

→児童養護施設や関連する施設で少なくとも3年から5年以上働いている方で、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得されている方が望ましい。また、公的機関や民間機関との連携ができる人の採用を進めていく。

- ・開設予定地の施設で、対象者が安心安全に過ごせるために、心理的、物理的にどのようなことが大切と考えているか。

→3LDKの一般的な家屋マンションでの実施を予定しており、できるだけ死角をなくすようにし、対象者が共同で利用するのに、心地のよい環境に整備しようと考えている。

- 相談事例を挙げ、具体的な対応について説明を求めた。

→まずは、相談につながったことについて感謝の気持ちを示したい。

その後は、対象者がどのようなことに困り感を抱いているのか、丁寧にアセスメントを行いたい。

また、必要に応じて、心理職員によるカウンセリングを行うほか、同年代や同じような環境にいる人たちの交流を通して繋がりを増やしていくことも支援として考えられる。

3 審査、受託者候補者の決定

一次審査及び第二次審査の得点の合計点が、配点総合計の6割以上の点数を得ており、選定委員の合意の上、本事業者を受託者候補者として選定し、区へ報告した。